

ガイドさんから鳩友会理事へ 楽しい思い出をふり返る



昭和54年入社 観光バスガイド
森内 喜美子

今から16年近くも前の事です。同期のはなちゃん(※注)同期入社遠藤はな子さん)から突然電話の連絡が入りました。

今度開かれる、はとバス鳩友会設立総会に、出席してねとの事でした。

あなたは理事になっているからね、との事でした。

理事?私?何のこと??頭が??でした。

その日は地元の民生委員会に参加しなくてはならず、そのため設立総会は欠席するつもりで、委任状を出したばかりでした。

しかし、お世話になったは

とバスの新組織の設立とあっては、やはり参加しなくてはと思い直し、当日京橋会館へ急ぎました。

鳩友会設立の趣旨と、組織を運営する理事の重要性を理解し、わたしでお役に立てるならばと考え了解をし、総会で理事になることを承認されました。

それより15年に亘り、理事をさせていただきました。

それから、色々と様々なことがありましたが、本当に楽しかったです。

本会で理事会があった時は、お弁当を西友とかヨーカドーで、どれが良いか悩んで

購入し、会議が終わったら、反省会を開き鳩友会のこれからをどうしようかと、みんなであいあいな話し、やりがいのある日々を過ごしました。

また、入社してからお付き合いのあったのは、ガイドと運転士さんばかりでしたが、鳩友会を通じ、色々な職種の方とお知り合いになり、解り合えたりも私の人生で、本当に為になりました。

わたしは昭和54年3月に、はとバスに入社しました。私たち同期班は、(花のC班)と勝手に名前をつけていますが、24名の同期は個性が強く、賑やかなメンバーばかりです。

新入ガイドは都内の定期コースから教習を始めるのが通例ですが、この時代、修学旅行など日光方面に行くお仕事が多く、わたしたちC班は、はとバスとして十数年ぶりとなる、郊外からの初期日光から教習を開始しました。

そして特筆すべき事は、わが班は同郷・北海道出身が6名で、同じ高校出身がなんと3名もいたのです。それも誘い合って一緒に入社を希望した訳ではなく、試験前日まで同校から受験生が3名もいるとは知りませんでした。この様なことが重なり、絆が深く今でも友情が続くことになったのだと思います。

こんな個性の強い私たちC班のメンバーは、指導して戴いた長谷井由紀子先生を

困らせたことでしょう。

そんな私たちを、先生は温かい目で見守ってくださいました。そして、かく有るべし、との願いをこめて、私たちの同期会を(美しい友情が長く続く様に)との意味で、珠鶴会(すずかい)と名付けてくれました。

同期はみんな仕事を持っていて、鳩友会のイベントを開催する時は、連絡を取り合い、それぞれが早めに休みを調整し、みんなに参加をしています。皆さんご存じの通りその参加率の高さが我々の自慢です。昨年の鳩友会・日帰りバスツアーで、日本平に行った時も、同期みんな、具合が悪い私を支えてくれました。本当に同期のみならず、感謝・感謝の思いでいっぱいです。

ツアーで日本平東照宮を参拝した時、徳川家康の遺訓(人の一生は重き荷を負うて遠き路を行くが如し、急ぐべからず...)を見たとき、その昔日光班の教習で覚え、この遺訓がみんなの口からすらすら出てきて、びっ

くりです。まさに(スズメバまで踊り忘れず)ではなく(ガイド百までガイド忘れず)の思いでした。先ほど体の具合が悪いと書きましたが、実は令和3年5月脳梗塞で入院をし、他にも色々な不調が体に現れました。

この3年間、体に自由に利かないもどかしさで、日々元氣印のきみちゃんも大人しくなり、今までと違い、みんなにご心配をおかけしました。しかしこの頃は、自分のペースでゆつくりと、鳩友会ライフを愉しもうと思っています。家康公ではありませんが、急ぐべからず、急ぐべからず、ですね。はとバスのガイドそして鳩友会まで知り合えた、かけがえのない先輩・後輩の皆さん、そして同期のみんな、これからもよろしく願っています。



▶青春の思い出 成人式



▶ガイド研修 犬山城